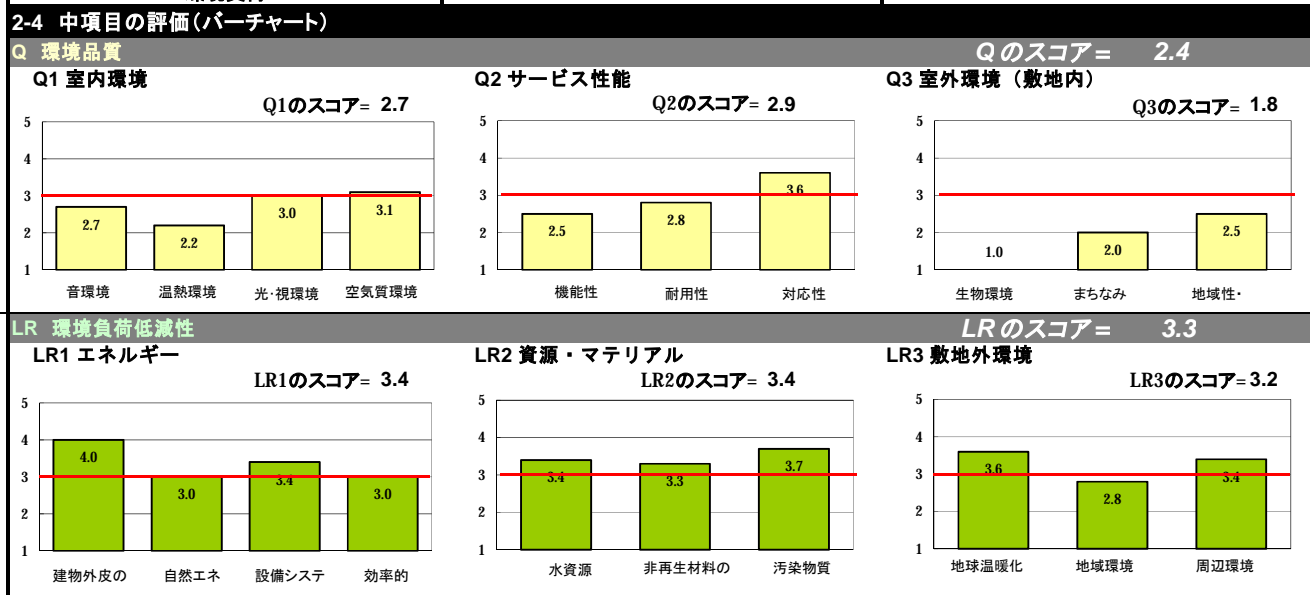
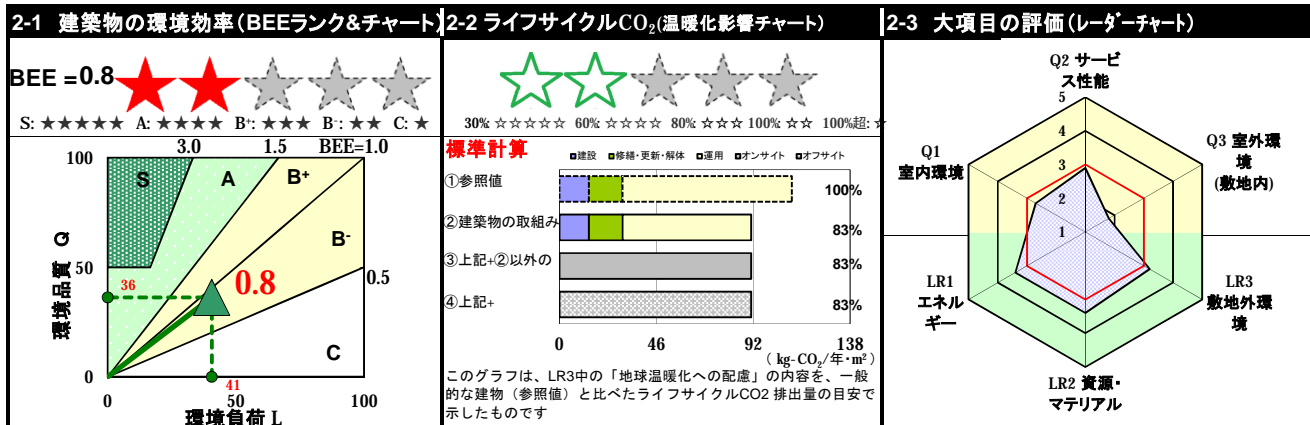


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	Dプロジェクト門真Ⅲ 新築工事	階数	地上4F
建設地	大阪府門真市北島東町	構造	S造
用途地域	準工業地域、準防火地域	平均居住人員	53 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年3月 予定	評価の実施日	2020年2月28日
敷地面積	13,226 m <sup>2</sup>	作成者	大和ハウス工業(株) 一級建築士事務所 辻井 光
建築面積	6,554 m <sup>2</sup>	確認日	2020年2月28日
延床面積	23,886 m <sup>2</sup>	確認者	大和ハウス工業(株) 一級建築士事務所 辻井 光憲

外観パース等  
図を貼り付けるときは  
シートの保護を解除してください



3 設計上の配慮事項		
<p><b>総合</b></p> <p>ゆとりのある階高や十分なリフレッシュスペースの確保で建物利用者の環境への配慮がなされており、節水設備やLED器具の採用は自然環境への省エネルギーの配慮となっている</p>	<p><b>その他</b></p> <p>LED照明の採用</p>	
<p><b>Q1 室内環境</b></p> <p>吸音材の使用、十分な自然換気と採光の確保となる窓の設置</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p>空間のゆとりへの配慮(階高、壁長さ比率)</p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b></p> <p>出来る限りの緑地を計画</p>
<p><b>LR1 エネルギー</b></p> <p>BEIm=0.76</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b></p> <p>節水コマ+節水型便器の採用</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b></p> <p>ライフサイクルCO<sub>2</sub>排出率: 83%</p>

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

# 大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

H31-0162

Osakafu・新築・既存 2018V1.0

【建物概要】		建物名称	Dプロジェクト門真Ⅲ 新築工事					
		建設地	大阪府門真市北島東町					
		用途/区分	工場 事務所					
【評価結果】		CASBEE 総合評価	★★★★★			B-		
①	CO2削減		★★★★★			4		
②	みどり・ヒート アイランド対策		★★★★★			2		
③	建物の断熱性		★★★★★			4		
④	エネルギー削減		★★★★★			3		
⑤	自然エネルギー直接利用					—		
		再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	○	風力	—	地熱	—
			太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—
エネルギー消費量の報告						報告しない		
【評価項目】								
項目		評価内容				スコア	評価	
① CO2削減		CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価				3.6	4	
② みどり・ヒートアイランド対策								
生物環境の保全と創出		CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価				1.0	2	
敷地内温熱環境の向上		CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価				2.0		
温熱環境悪化の改善		CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価				3.0		
③ 建物外皮の熱負荷抑制		CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価				4.0	4	
④ 設備システムの高効率化		CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価				3.4	3	
⑤ 自然エネルギー利用		CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価				3.0	—	
エネルギー消費の実態把握に努める		エネルギー消費量の実績を3年間報告する。				報告する 報告しない	報告しない	
その他								
		技術の名称			考慮事項			
先進的技術の導入								
特に配慮した事項								